



「ヘルシーキャンパス企画」 「オープンラボ寄席めでいかる亭第3弾 京都大学落語研究会」開催報告

2019年4月22日(月)午後6時半から、京都大学保健診療所健康づくりオープンラボにて、京都大学落語研究会(通称：オチケン)による約1時間のイベントを開催しました。

今回は各サークルの新入生歓迎時期とも重なり、クスノキの下で勧誘された学生さんが多数と落語に興味を持ってイベントに参加して下さった職員さん合計19名が足を運んで下さり、オープンラボが満員御礼状態となりました。

「笑いで心も体もええ感じになる」をコンセプトで始めたマインドチームの落語企画・めでいかる亭は第3弾を迎え、島本助教によるヘルシーキャンパスについての説明を交えた挨拶から開演となりました。今回も演者は3名で、いずれもめでいかる亭初登場。この日のお客様は新入生が多く、演者たちもオチケン入会メンバー獲得にもかかわる会のためか、緊張よりは勢いが勝った空気が流れており、今回は少し今までとは雰囲気につつま



れていました。

開口一番は葵家猿渡(さるわたり)さんによる「猫の皿」。店で飼われている猫のエサ皿が高級品であることを見抜いた男が、なんとかしてそ

の皿を手に入れようとして、飼い主と駆け引きする姿をコミカルに演じられていました。

二番手・葵家鹿の子(かのこ)さんは初の女性演者で、華やかさも加わりました。演目は「松山鏡」。まだ鏡が庶民に知られていない時代、亡くなった父親に会うことを願った男に、殿様が鏡を与えることから始まる騒動が見もの。鏡を見る男の表情が滑稽に豊かで観客の笑いを誘いました。

トリを飾ったのは、楠木亭みそしるさんの「持参金」。今日中に借金の返済を迫られた男が、同じ日に、かなり“難”ありのお嫁さんに借金の額と同額の持参金をつけるという縁談を持ち込まれます。この話のからくりが少し頭の混乱を誘うも、ひょうひょうとした演じっぷりで観客をひきつけました。



アンケートでは、「思ったより本格的だった」「京大でこのようなものが見られる機会があって驚きました」「楽しかった」などの感想をいただき、みなさん、心も体も「ええ感じ」になってもらえるきっかけとなれば幸いです。(保健診療所 山添)

担当 : 島本・Thomas・小野・山添 連絡先 : TEL : 075-753-2453 (HC 事務局) Mail : mind@hoken.kyoto-u.ac.jp